

道徳科学習指導案

令和4年11月 第6学年 指導者 小倉 直美

- 1 主題名 ほこりある郷土 内容項目C－(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
- 2 教材名 「天下の名城をよみがえらせる－姫路城－」(出典:「小学道徳 生きる力6」日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たし、生きる上での精神的な支えとなるものである。郷土でのさまざまな体験等を通して郷土を愛する心が育まれていくが、郷土から国へと親しみをもちながら視野を広げ、国や郷土を愛する心を持ち、よりよくしていこうとする心情を育成することが大切である。本時では、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術等を大切に、それらを次代に引き継ぎ、発展させていこうとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態(男子11名 女子14名 計25名)

児童たちは、これまでに地域のお祭りに参加するなど地域に愛着をもって生活している様子が伺える。また、これまでの学習や経験を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産にも目を向けられるようになってきている。一方で、郷土への関心や尊重する態度については十分であるとは言えない。本実践を通して、更に地域にある文化遺産のことを改めて考える機会とし、大切さを感じたり受け継いだりしようとする態度を育てたいと考えた。

(3) 教材について

本教材は、平成の修理を終えた現在の姫路城を見つめるひろみと祖父の会話で始まる。同世代のひろみが登場することで、感情移入しやすく共感しやすい構成となっている。また、事実に基づいた話であるため、児童は興味をもって読み進めていくであろう。

祖父の語りから姫路城の美しい姿を守り続けた先人の苦労や努力に目を向け、自らも継承していこうと願うようになったひろみの姿を通して、先人が残してくれた郷土や我が国の伝統文化を後世に残すために大切にしようとする気持ちを高めていきたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値を想起し、自分の問題として捉えるために

- ・修学旅行や総合的な学習での画像を見ることで、体験したことや感じたことを思い出せるようにする。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・姫路城の修復に関わった宮大工、姫路城のエピソードを主人公に聞かせる祖父、主人公それぞれの心情を考えさせることで、伝統や文化のよさは長い時間を掛けて積み重ねられてきた先人の努力や希望によるものであることに気付けるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・本時で学んだことや気付いたこと、今後どのようにしていきたいかなどの視点で振り返るようにする。

5 研究との関わり

本時で扱う道徳的価値と関連付けた行事である矢瀬遺跡見学に関わる資料を提示する。また、展開③で歴史ガイドさんのインタビュー動画を提示することで、考えを深められるようにする。

6 本時の展開

(1) ねらい

祖父から平成の修理についての語りを聞いた主人公や姫路城に関わった人々の思いを考え交流することを通して、先人の努力を知り、郷土や我が国の伝統文化を受け継ぎ、大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備

教師：教科書・掲示用資料・電子黒板・パソコン・CDデッキ・範読CD

児童：教科書・ノート

(3) 展開

時間	学習活動と発問	・想定する児童の意識	◎研究上の手立て ○支援及び指導上の留意点
導入 8分	1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ☆事前アンケートの結果を電子黒板で見る。 ☆総合的な学習で見学した矢瀬公園遺跡の画像を電子黒板で見る。	・珍しいから大切だと思った。 ・古いからかな。 ・そうか、矢瀬公園も受け継がれたものだったな。 ・身近なところにもあるな。	○事前アンケート「地域で受け継がれているもの、大切にされているもの」の結果を提示し、本時で扱う道徳的価値への方向付けをする。 ◎史跡見学の様子を電子黒板に提示することで、自分の暮らす地域にも受け継がれてきたものがあることを想起できるようにする。
[めあて] 地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう。			
展開 ① 8分	2 教科書の教材文の範読を聞き、内容を捉える。 ○地域の方は姫路城のどのようなところを自慢に思っているのでしょうか。 ○姫路城に関わった人はどのような人がいますか。	・きれいなところ。 ・苦勞して修理したところじゃないかな。 ・姫路城を建てた人。 ・和田さんや加藤さん。	○教科書の場面絵を提示し、教材文の内容を捉えられるようにする。
展開 ② 10分	3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ◎和田さんと加藤さん、ひろみさん、おじいさんはそれぞれ姫路城にどのような思いをもっていましたか。	(和田さん・加藤さん) ・絶対にあきらめないぞ。 ・木を組み合わせれば、なんとか修理できる。 ・修理に関わられて嬉しい。 (ひろみさん) ・姫路城を大切にしたい。 (おじいさん) ・ひろみさんに姫路城のよさを受け継ぎたい。	○個人で考えてからペアで話し合わせた後に全体で共有することで、より多面的・多角的に考えられるようにする。

	◇おじいさんは、なぜうれしそうにうなずいたのでしょう。	・ひろみさんは、これから姫路城を大切にしようとしてくれるだろう。	○おじいさんの気持ちを考えることで、受け継ぐことに気付いたり考えたりできるようにする。
展開 ③ 14分	4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 ☆史跡ガイドさんのメッセージ動画を視聴する。 ○私たちの地域でも大切に受け継がれてきたものがあるのはなぜでしょう。	・ガイドさんの言っていたように、文化遺産を受け継いでいきたいな。 ・姫路城と同じで、矢瀬遺跡を残そうとした人がいたから。 ・どのような文化財にも関わった人がいて、大切に残したからだろう。	◎史跡ガイドさんのメッセージ動画を視聴させ、専門家の考えに触れることで、思いや考えを深められるようにする。 ○考えをペアやグループで交流することで、多くの考えに触れられるようにする。
終末 5分	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考え方を振り返る。 ○これまでの自分はどうか。これからはどのようにしていきたいですか。	・昔から多くの人に関わって、大切に守られてきたのだな。 ・自分たちも大切に、他の人にも伝えたい。	○話し合った内容と、これまでの自分の生活を振り返り、今後の生活に結び付けて考えられるようにする。

(4) 評価の観点

- 宮大工さん、ひろみさん、おじいさんそれぞれの思いを考えることを通して、受け継がれてきた地域のよさについて多面的・多角的に考えることができたか。
- 受け継がれてきた地域のよさについて、自らの体験と重ねて想起したり自分にできることは何かを考えたりして自分自身との関わりで考えているか。

(5) 板書計画

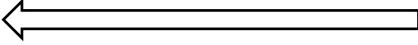
○ふりかえり
今まで 道徳の学習をしてこれから

写真資料



○地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう

○姫路城に関係した人たち



住んでいた人
加藤さん
和田さん
大工さん
ボランティアの人たち
おじいさん
ひろみさん



おじいさん
ひろみさんが姫路城を残したいと思ってくれてうれしい

和子さん・加藤さん
絶対に修復する
・姫路城は地域のほこりだ

ひろみさん
いつまでも美しい姿を残したい

十一月
ほこりある郷土（伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度）
天下の名城をよみがえらせるー姫路城ー

- ・自慢に思うこと：矢瀬遺跡 谷川岳
- どうして大切なのかな？
- ・古くからある 受け継がれている 他にはない どのように大切にしているのかな？

○地域の文化遺産が大切に受け継がれてきたのはなぜでしょう。